開導聖人を支えたご信者物語 第4回

200th Anniversary
佛立開導日扇聖人ご生誕200年慶讃

大阪の地で御題目を弘めるご奉公に励みながら、特に外護（ご信者が自分の持っているお金や物、身体を使って、み教えを保護し、お坊さんの修行を助けること）のご奉公では、どのご信者にも負けなかったのが秦新蔵さん。今回は初代・秦新蔵さんのお話をするね。

初代 秦 新蔵

秦新蔵さんは文政八年（一八二五）に生まれたんだ。御題目のご信者となったのは安政四年（一八五七）頃で、秦さんが三十三歳の時なんだ。

でも、御題目のご信心といっても開導聖人の開かれた「本門佛立講」ではなかったんだね。開導聖人と親交のあった讃岐（香川県高松）の高松左近公（高松藩主のお兄さん・平成二十七年八月号の「開導日扇聖人物語」を見てね）が開かれた御題目のご信心に入信したんだよ。

秦さんの家は、大阪市北区中之島玉江橋の南詰にあったんだけど、その隣には何と讃岐・高松藩の「蔵屋敷」（大名が自分の領地の年貢米や特産物を売るためにこしらえた倉庫と屋敷）があったんだ。その「蔵屋敷」にいた高松左近公に勧められて、秦さんは御題目のご信者となったんだね。ところが、慶応四年（一八六八）八月七日、この高松左近公が亡くなってしまうんだ。

高松左近公は、亡くなる直前に秦さんに「私が亡くなったあとは、清風先生（開導聖人）にご信心のことを教わるように」と遺言（死んだあとのことについて言い残す）されていたんだ。秦さんが開導聖人にこのことをお話すると、開導聖人はとても快く（気持よく）承諾（受け入れる）されたんだ。こうして秦さんの一家は「本門佛立講」のご信者となったんだよ。

明治二年（一八六九）一月、「浪華本門佛立講」と名前をいただいて、秦さんはその講元（中心となって世話をする役）となったんだ。そして、この年から月始めの十日間、開導聖人に京都から大阪に来ていただき、み教えを説いていただくことになったんだ。開導聖人が大阪に来られた時の宿泊（旅先などで泊まる）は、いつも秦さんのお家だったんだよ。

秦さんは、他にも開導聖人をいろいろと援助されるんだけど、生活の助けになるようにと毎月、お米を贈られたんだ。開導聖人は「長い間お米を贈っていただいた。本当に大きな功徳を積まれた」と、そのご奉公に対しとても感謝されたんだ。

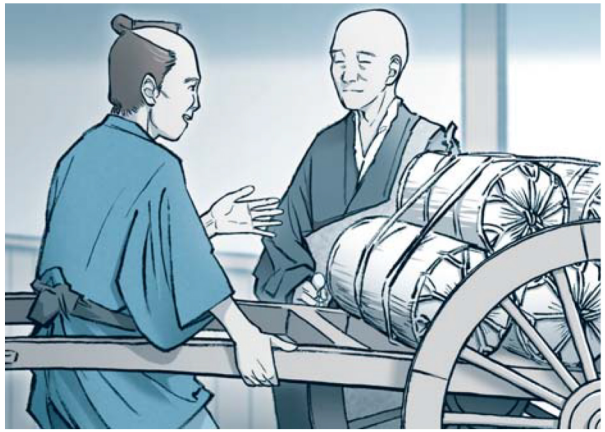
そして秦さんは、息子の繁松（三男）を開導聖人のお弟子にと、十三歳で宥清寺の修学所（ご信心を学ぶ学校）に入れるなど家族そろって開導聖人を尊敬し、熱心にお給仕（世話をすること）されたんだね。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆

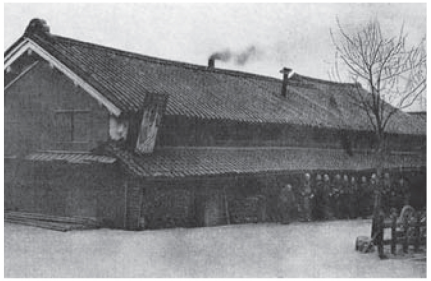
明治十四年（一八八一）一月十八日、秦新蔵さんはお亡くなりになるんだよ。

開導聖人が、秦さんに与えられた法号（亡くなった人が御導師や御講師からいただく名）は「立講院清開永榮日仙居士」（ふりがなは長松家の過去帳から）で、五十七歳でお亡くなりになったんだ。

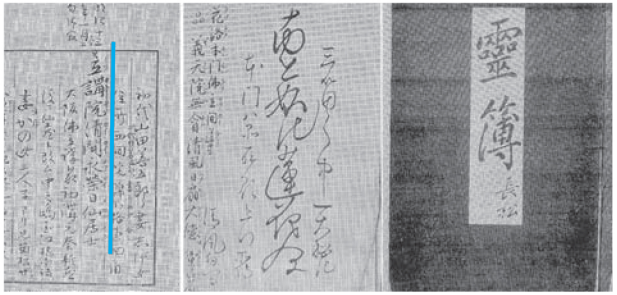
高松左近公
讃岐（香川県）を治める高松藩主のお兄さんである高松左近公は、熱心な御題目のご信者であった。その高松左近公から秦さんはご信心を勧められた



秦さんは毎月、開導聖人にお米をご供養されたんだ



高松藩の蔵屋敷の隣にあった秦さんの家
（写真は明治10年頃のもの）



「長松家（開導聖人）」の過去帳には、秦新蔵さんの法号もある